目指す姿 4

未来を育み誰もが学び続けるまち

年齢や立場にかかわらず、全ての町民が学びの機会を持ち、自らの可能性を伸ばしながら、いきいきと活躍できるまちを目指します。子どもたちの健やかな成長と学びを支えるとともに、生涯にわたる学びの場を広げ、学びが人と地域を育てる環境づくりを進めます。

「海」
山田小４年　山﨑 壮偉さん

施　策

4-1　子　育　て

基本方向

全ての子どもが健やかに育つよう、
出産・子育てを支える体制を充実させます。

まちの状態指標

指標名	単位	指標の説明（出典元）	現状値	目指す方向
合計特殊出生率	%	１人の女性が一生のうちに産む子どもの平均数を示す指標	1.51 （令和５年）	↑

SDGs

現状と課題

○近年のライフスタイルや社会状況の変化により、地域とのつながりが希薄化し、子育てに関する助言や支援を得にくくなっているほか、経済的負担への不安などから、子育てに不安を感じる保護者が増加しています。

○安心して家庭を築き、子どもを迎えられる環境を整えていくためには、結婚や妊娠・出産に伴う経済的負担の軽減に加え、新たな生活のスタートや出産前後の様々な局面に寄り添う切れ目のない支援が必要です。将来に希望を持ち、喜びをもって子育てに取り組めるような暮らしの実現が必要です。

○保護者が就労等を通じて社会参加をしながら、次代を担う全ての子どもが健やかに成長していくためには、家庭だけでなく地域社会全体で子育て家庭を支える体制の構築が重要です。保育環境の整備や子育て支援体制の充実を図るとともに、子育てに伴う負担や不安、孤立感の軽減を図り、全ての子どもが心身ともに健やかに育つよう取り組むことが求められています。

○学齢期におけるう歯※の多さも課題となっており、子どもの健康面に配慮した支援の充実も重要です。

取り組みの方向性

（１）結婚・出産に関する支援の充実

結婚や子育てしやすい環境となるよう、結婚や妊娠・出産に伴う経済的な負担の軽減に取り組みます。新たな生活のスタートや妊娠・出産に関わる不安に寄り添い、切れ目のない支援を通じて、子育てに希望を持てる環境づくりに努めます。

（２）母子の健康増進

子ども家庭センターにおいて、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない相談支援体制を継続し、子どもの健康の保持増進を図るとともに、育児等に対する不安を解消し、安心して子育てができる環境づくりに努めます。

（３）子育て支援体制の充実

安心して子どもを育てられる環境を整えるため、保育料無償化や在宅育児に関する経済的支援、18 歳までの医療費の無償化などを通じて、経済的負担の軽減に取り組みます。

また、親子の交流や育児に関する相談の場を充実させることで、地域全体で子育てを支える体制の強化を図ります。

（４）保育サービスの充実と児童の健全育成

多様な保育サービスの提供を通じて、子育て家庭の様々なニーズに対応し、保護者が安心して働ける環境の整備を進めることで、子育てと仕事の両立を支援します。

また、全ての子どもが安心して保育を受けられるよう、保育環境の整備に努めるとともに、放課後における子どもたちの安全・安心な居場所を確保し、児童の健全な育成に取り組みます。

（５）歯科保健の推進

子どものう歯※本数改善のため、就学前児童から中学生まで一貫してフッ化物洗口※を実施し、う歯予防に努めます。

施　策

4-2 学校教育

基本方向

全ての子どもが心身ともに健やかに過ごし、
意欲的に学べる学校づくりを進めます。

まちの状態指標

指標名	単位	指標の説明（出典元）	現状値	目指す方向
学校生活満足度	%	「学校に行くのは楽しい」の肯定割合（全国学力・学習状況調査）	79.2（小） 80.4（中） （令和６年度）	↑

SDGs

現状と課題

〇全ての児童生徒が将来への希望を持ち、心身ともに健康で充実した学校生活を送れるような教育環境が求められています。

〇情報化やグローバル化が急速に進む中で、児童生徒の社会変化への適応力や自ら課題を解決していく力を育むためにも、ＩＣＴ環境※を充実させることで学習の質の向上や効率化を図ることが重要となっています。また、近年は夏季の気温上昇が著しく、児童生徒の健康や学習環境への影響が懸念されることから、空調設備の整備や熱中症対策の充実など、暑さに配慮した教育環境の確保が求められています。

〇何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的な要因・背景により不登校となっている児童生徒は年々増加しており、誰一人取り残さない学びの保障のため、多様な学びの場の確保や関係機関と連携した支援が必要となっています。

〇児童生徒の派遣事業については、令和７年度に６年ぶりに事業を再開し、イングリッシュキャンプを実施したところですが、より多くの子どもたちが、これからの多様化する社会を生きる力を身に付けていくためには、自主性や積極性を伸ばし、人生観や職業観を学ぶことのできるような新たな派遣事業についても展開していく必要があります。

〇本町唯一の高等学校である県立山田高等学校は、今後も入学者の減少が見込まれますが、人口減少や少子高齢化が進む本町において、地域を支える人材育成や地方創生の推進に重要な役割を担っており、同校の存続に向け、魅力化・特色化が課題となっています。

取り組みの方向性

（１）豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

道徳教育を全教育活動で行い、子どもたちの豊かな心を育むとともに、特別の教科道徳の授業研修会を行うことで教職員の資質・能力の向上に努めます。

また、給食を通じて食に関する知識を深め、健全な食生活を実践できるよう取り組むとともに、子育て世帯の経済的負担軽減のため、給食費の無償化を継続します。

（２）確かな学力を育む教育の推進

一人ひとりの自己実現に向け、基礎学力の定着や学習意欲の向上に努め、進んで学びに取り組む子どもたちの育成に努めます。

また、「山田の学び」の理念に基づく教育活動により、小・小連携、小中連接による教職員の授業力・指導力向上を図り、９年間を見通した継続的な指導に取り組みます。

（３）充実した教育環境づくり

子どもたちの安全を守り、安心で快適な学校生活を確保するため、施設等の適切な維持管理に努めるとともに、設備等の整備や更新による環境改善を図ります。

また、学校と地域の連携・協働の推進を図り、学校が抱えている多様化する課題解決に向け取り組みます。

（４）いじめ・不登校対策の推進

学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止や早期発見、迅速な対応を基本とした組織的な対応に取り組みます。

また、不登校児童生徒への支援については、文部科学省 COCOLO プラン※を基に、スクールカウンセラーや特別支援教育コーディネーターと連携した教育支援体制の充実を図るほか、旧船越小学校校舎を活用した多様な学びの場を提供します。

（５）多様化する社会を生き抜く人材の育成

多様化・国際化する現代社会において、必要となる英会話スキルやコミュニケーション能力を身に付けるため、イングリッシュキャンプを実施するとともに、子どもたちが将来にわたって自分らしい生き方を実現できるよう、キャリア形成を目的とした新たな派遣事業を実施します。

（６）高等学校教育の充実

山田高校が独自に進める魅力化・特色化の取組を支援するとともに、地域や地元企業、民間団体等との連携・協働を通じて、地域社会を担う人材の育成に努めます。

また、他校との交流事業を実施し、高校生がお互いの地域の歴史や文化、多様な価値観への理解を深めるとともに、自らの地域への誇りや、他地域への関心を育むことを目指します。

あわせて、更なる入学者の確保に向けて、新たな支援策の検討を進めます。

施　策

4-3 生涯学習

基本方向

全ての町民がいつまでも学び続けられる環境を整え、
豊かな人生の実現を支えます。

まちの状態指標

指標名	単位	指標の説明（出典元）	現状値	目指す方向
生涯学習関連事業への参加者数	人	町（生涯学習推進本部）が推進する生涯学習関連事業への参加者数	104,226（令和６年度）	→
社会体育施設等年間平均稼働率	%	社会体育施設及び学校開放施設などの稼働率	23（令和６年度）	→
町民芸術祭観覧者数	人	町民芸術祭の合計観覧者数	2,200（令和６年度）	↑

SDGs

現状と課題

○本町では、家庭教育支援から地域講座、学校との協働活動に至るまで、多岐にわたる生涯学習施策を展開し、町民が身近な場所で学びに触れることができる環境づくりが着実に進められています。各講座や事業においては、地域資源を活用した内容や参加者ニーズに即した柔軟な運営が評価されており、特に高齢者層を中心に、学習活動への継続的な参加が見られます。

○一方で、参加者層の固定化や、若年層・現役世代・男性の参加が少ないといった傾向も明らかになってきており、多様な町民が学びにアクセスできる仕組みづくりが求められています。また、学習活動の継続性や団体間の連携、情報発信力の面においても課題があり、学びを通じた地域のつながりの形成や、町民の主体的な参画を促す体制を構築する必要があります。

○企画内容や、情報提供の手段についても、地域間・世代間での格差が生じないよう配慮し、誰もが等しく学びの機会を得られるよう工夫を凝らす必要があります。これらの課題に対応しつつ、人生を豊かにする多様で開かれた学びの場づくりを推進していくことが求められています。

○スポーツやレクリエーション活動は、健康志向の高まりやライフスタイルの変化を背景に、その目的やニーズが多様化しています。かつては競技スポーツが中心でしたが、近年では健康維持やストレス解消、生活習慣病の予防といった観点からも注目されるようになってきています。定期的な運動は免疫力の向上や健康寿命の延伸に寄与するほか、世代や性別を超えた町民の交流機会を生み出し、地域コミュニティの活性化にも貢献しています。

○一方で、少子化や人口減少に伴い、競技人口の減少や活動団体の縮小といった課題が浮かび上がってきており、地域におけるスポーツ活動の持続可能性が懸念されています。このため、町民の誰もがスポーツやレクリエーション活動に気軽に参加でき、楽しみながら継続できるよう、スポーツ団体や個人への支援体制の充実を図る必要があります。

○こうした生涯学習活動を支える基盤として、社会教育施設や体育施設、文化施設は重要な役割を担っています。そのため、老朽化が進む施設の計画的な改修や、文化施設の魅力向上に取り組んでいくことが求められています。

○本町では、町民が芸術文化に親しむことができるよう、芸術文化協会及び郷土芸能連合会と連携し、町民芸術祭や出前公演の開催などを通じて、幅広い世代に向けた取組を行っています。一方で、芸術文化団体や郷土芸能団体では、構成員の高齢化や後継者不足が懸念されており、地域の芸術文化を将来にわたって維持・発展させていく体制づくりが課題となっています。

○本町に残る文化財は、長い歴史と風土に育まれた貴重な地域資源であり、その価値を次世代に引き継いでいくためにも、適切な保存環境の整備が求められています。

取り組みの方向性

（１）生涯学習推進体制の充実

生涯学習の施策を総合的かつ効果的に推進するために、山田町生涯学習推進本部の機能を十分に活用し、その活性化を図ります。

また、生涯学習の振興に関する様々な課題に対応するため、山田町生涯学習推進協議会内に「地域学校協働本部」を設置し、積極的な運営と情報発信に取り組みます。

（２）家庭教育の推進

家庭での教育力向上を目指し、保護者の学びを支える講座、生活リズムに寄り添った学びの場と、つながりづくりの機会を広げて、子育て家庭を取り巻く環境の変化に対応し、保護者の不安や悩みに寄り添う学びの場を充実させます。

（３）学習活動の支援

年齢や性別にとらわれない多彩な講座の開催により、様々な学習ニーズに応えられるよう企画や講師人材の確保に努めるとともに、講座運営を支援する「生涯学習活動サポーター」の育成とその効果的な活用に努めます。

（４）関係機関等との連携

学校、地域団体、福祉関係機関などと連携し、子どもから高齢者まで誰もが関われる学びの体制づくりを進めます。地域の課題解決にもつながるよう、協働の場や情報共有を活性化させます。

（５）スポーツ環境の整備

誰もがスポーツに親しみ、健康の維持や生活の充実につなげられるよう、スポーツ団体の育成・支援を進めるとともに、各種教室や大会の開催などにより、技術向上や活動機会の確保を図ります。

また、町民が身近にスポーツに取り組めるよう、学校体育施設の開放も行います。

（６）社会教育・体育施設の整備

老朽化が進む中央公民館や社会体育施設については、計画的な修繕・改修を行います。また、文化施設においては新たなコンテンツの企画や情報発信などにより、魅力の向上に取り組みます。

（７）芸術文化・郷土芸能の推進

町民が芸術文化や郷土芸能に親しみ、主体的に活動できるよう、関係団体の取組を支援します。町民芸術祭や出前講座の開催、体験の機会の提供などを通じて、創作や鑑賞の場を確保するとともに、特に若い世代がこれらの文化に触れ、学び、将来にわたり継承していけるよう、次世代の担い手の育成にも取り組みます。

（８）文化財の保護・活用と愛護思想の普及

文化財の保存・活用に関する長期的な計画を定め、廃校舎等を活用し適正な保存環境の整備を行います。

また、愛護思想の普及を図るため、企画展等の事業を開催します。